

津軽中里駅構内の駅ナカにぎわい空間で、中泊町の魅力発信「中泊大集合市」が3月6日(土)に行われました。会場では地場産の鮮魚類や新鮮野菜の販売などが行われたほか、横笛や三味線、ジャズの生演奏などのステージ発表などで大いに盛り上がりました。

このイベントは、津軽半島観光アテナントが毎月第1土曜日に、金多豆蔵人形芝居の公演とあわせての開催で、令和3年度も実施予定となっていますので、町の魅力たっぷりのこのイベントにぜひ足を運んでみてください。



ようこそ！ 奥津軽いまべつ駅へ 開業5周年記念イベント



北海道新幹線の奥津軽いまべつ駅の5周年を祝い、次の10周年への機運を高めるべく、記念イベントが同駅で3月28日(日)に開催されました。この日は、これまで1日駅長などで駅を訪れた子供たちが描いた絵の入賞作品表彰式も行われており、受賞の子どもたちとその家族らも一緒に駅ホームで、新幹線の見送りを行いました。

また、駅に隣接する特設会場では、荒馬の披露のほかキッチンカー6台などが出店、関係団体のご当地キャラクターのお出迎えが行われました。中泊町からも米ケルJr.が駆け付け、イベントを盛り上げていました。

奥津軽の光を探す 五所川原市民団体が座談会

北海道新刊新幹線開業5周年を迎える前に3月26日(金)に総合文化センターパルナスで、五所川原市の市民団体「公開講座 奥津軽」(代表・角田周)が座談会を開催しました。座談会は、新幹線開業効果を検証すべく角田代表の進行によって、今別荒馬の里資料館の嶋中卓爾館長、郷土研究科の荒関勝康さん(五所川原市)、五所川原ノルディックウォーク倶楽部の小田桐匡孝代表、青森大学社会学部の櫛引素夫教授などのパネリストが思いの丈を口にしました。

角田代表は「少し方法を変えるだけで注目度は高まり、参加者も増える」と分析し、櫛引教授は「これからの観光には、住民が地元を誇りを持てる歴史や文化などの『光』の部分、観光客に体験したいと思わせることが求められると思う」と話しました。



乗って応援!!

令和2年度 目標乗車人数	300,000人
令和2年4月から 2月までの乗車人数	158,584人
目標まであと……	141,416人

津
軽
鉄
道

